

NPO 法人 レッドリボンさっぽろ
年次総会資料

日時：2023 年 5 月 14 日（日）10：00～12：00

場所：札幌市北区北 11 条西 3 丁目 2-23 ノースタウンハウス 218 号室

NPO 法人レッドリボンさっぽろ 事務所

NPO法人レッドリボンさっぽろ

年次総会 式次第

1. 開会宣言
2. 議長・書記選出
3. 2022 年度 事業報告
4. 2022 年度 決算報告
5. 各部報告
6. 2022 年度 総括案
7. 2023 年度 予算案
8. 2023 年度 人事案
9. 中期目標・2023 年度短期目標の確認

2022年度事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 レッドリボンさっぽろ

1 事業の成果

2022年度は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により長引く緊急事態宣言やまん延防止措置による影響がありましたが、講演の依頼やラジオ出演依頼など、新たなつながりの1年となりました。

●エイズ電話相談

長引く緊急事態宣言やまん延防止措置により、相談件数は前年からわずかに減少し、195件となりました。
新しい予防法であるPrEPやPEPに関する相談も増えてきました。
また、2022年度は、エイズ電話相談の周知を目的にさぽーとほっと基金を活用して広報資材を制作しました。

●電話相談員派遣

札幌市にて実施する電話相談に相談員を派遣しています。

●HIV陽性者交流会inHOKKAIDO

HIV陽性者の相談場所のひとつとして、またコミュニケーションの場として、偶数月第3土曜日に札幌市内の公共施設などをお借りしHIV陽性者交流会inHOKKAIDOを2014年から実施しています。
2022年度は4/16・8/20・12/17の札幌開催に加え、初の地方開催として6/18:函館、10/15:帯広、2/18:旭川の開催を計画しましたが、10/21:帯広・2/18:旭川は参加申込が少なかったため、8/20は第7波による感染拡大のためにいずれも中止としたため4/16(土)・12/17(土):札幌、6/18:函館(いずれも市内の公共施設)にて対面で開催しました。
(参加人数4/16:7名、6/18:5名、12/17:8名 計20名)

●キルト作成

長引く新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、活動メンバーが7名となってしまいましたが、長引く緊急事態宣言等で、2ヶ月をのぞき、各自自宅での製作を余儀なくされました。
製作した作品は、オークションや個人売買をし、収益をアフリカにてHIV陽性者や遺児支援を行うNPO法人PLAS様に寄付しています。
2021年度も4月と10月に各3万円ずつ、計6万円を寄付。当該寄付金についてはキルト事業の雑費として計上しています。

●さっぽろレインボープライド ブース出展

9/17(土)～9/18(日)にさっぽろレインボープライドが開催され、9/17(土)にメイン会場となる南1条通の西3丁目にブースを出展しました。
当日はコンドームに関するアンケートにお答えいただいた方にシャボン玉をプレゼントしました。

●札幌市主催「ゲイ・バイ男性のためのエイズ検査」企画提案・広報・相談員派遣

札幌市保健所が実施する当検査会は、例年さっぽろレインボープライド関連イベントとして開催しています。
毎年レッドリボンさっぽろでは、検査会の広報と、検査会へ相談員の派遣を実施しています。
2022年度についてはコロナ禍直前の2019年度と同じ10:00～16:00で、9/25に白石保健センターで実施をしました。
受検者数44名、相談件数はこれまでで一番多い4件となりました。

●コミュニティFM ラジオ出演

STVラジオにて好評放送中の『Knock on the Rainbow』11月26日(土)放送にミツルさんがゲストとして出演し、HIV陽性者として自身の話や治療の話、陽性者が抱える課題などをお話しました。
また、5月6日のゴムの日、12月の世界エイズデーに合わせて、事務局長の沼田が5月と11月に三角山放送局の「にじいろスマイルラジオ」と「ピンクリボンin Sapporo」に出演し、基礎知識の話やU=Uなどの最新情報などをお話しました。

●にじいろほっかいどう「ゆうそう検査」検査キット配布業務一部受託

厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の研究事業の一環としてHIV検査キットを北海道内ではLGBT団体の「にじいろほっかいどう」が行いましたが、広大な北海道の配布には1団体だけでは難しいため、レッドリボンさっぽろも配布協力を行っています。
2022年度は、新たに室蘭市においてもキット配布を行い、広大な北海道の広大な北海道の予防啓発の一助となりました。
実施日:8/28 室蘭市内、9/3・9/4 札幌市内、9/10・9/11 函館市内、10/1・10/2 旭川市内
※検査キットはにじいろほっかいどうとあわせて、北海道内で224名に配布しました。

●ギリアド・サイエンシズ主催「北海道のHIV/AIDSの感染状況・検査の実情」ラウンドテーブルへの出席

抗HIV薬を製造・販売するギリアドサイエンシズ株式会社が主催し、「北海道のHIV/AIDSの感染状況・検査の実情」と題したラウンドテーブルが11/7札幌パークホテルでHIVラウンドテーブルが開催され、パネラーとして出席しました。
当日は道議会議員・札幌市議会議員・地方公共団体職員などを招き、ともに北海道内でのHIVに対する差別・課題を解決するためレッドリボンさっぽろに加え、HIV診療医師、はばたき福祉事業団北海道支部、にじいろほっかいどう、HIV陽性者が一堂に会しこれまでの経緯や現状をそれぞれの立場で発表し、意見交換を行いました。

●世界エイズデーをきっかけに～コミュニティセンター&居場所をつなぐ～出演

12/1の世界エイズデーに合わせて実施されているTOKYO AIDS WEEKS関連イベントの一つとして、HIV支援団体である認定NPO法人ふれいす東京が12/3に『世界エイズデーをきっかけに～コミュニティセンター&居場所をつなぐ』というオンライン番組を配信し、レッドリボンさっぽろからは事務局次長の秋山が出演しました。
HIV関連団体だけではなく全国でLGBT当事者の居場所作りを進めている団体の紹介をする内容で、生配信の他、Youtubeのふれいす東京チャンネルにてアーカイブ配信されており、4/16現在で約270回再生されています。

●さぽーとほっと基金パンフレットラック配架

2022年度は通年を通して、イオンモール札幌苗穂店とイオンモール札幌発寒店に設置をすることができました。
なお、2020年よりパンフレットラックに、パンフレットと共に配架していた『はたらく細胞 HIV特別編』ミニ冊子、および『はたらく細胞 HIV検査編』(2021年夏より配架)のミニ冊子についてはご提供いただいたギリアド・サイエンシズ様と出版社とのライセンス契約終了に伴い2022年7月をもって配架を終了し、パンフレット等の配架に変更しています。

●札幌市エイズ対策推進協議会出席

2月21日(火)札幌市保健所において札幌市エイズ対策推進協議会が開催され、当会から選出されている委員が出席しました。今回は対面での開催となり、札幌市における現状や2022年度の取り組みなどについて報告がありました。

●コミュニティセンターZEL主催「HIV陽性者と語ろう」オンラインイベントへの登壇

10月1日(土)仙台のHIVコミュニティセンターZEL主催により、HIV陽性者と語ろうが開催され、当会所属のHIV陽性者がオンラインで登壇しました。
今回は初のオンライン開催となり、遠方から参加された方もいらっしゃいました。
普段なかなか聞くことのないHIV陽性者の生活などをお話しました。

●エイズ出前授業の実施

11月16日(水)知床町立知床ウトロ学校様と、12月1日(木)江別市立江別第二中学校様にてエイズ出前授業を実施しました。
知床ウトロ学校様では7～9年生(中学1～3年生)24名と、教職員の皆さまに、
江別第二中学校様では中学3年生77名にむけて実施しました。

<その他特記事項>

●第36回日本エイズ学会への参加

現地・ライブ配信:11月18日(金)～11月20日(日) オンデマンド配信:12月1日～12月20日
2022年の日本エイズ学会はアクトシティ浜松で開催され、レッドリボンさっぽろからは1名が現地参加しました。
2022年度も現地開催も合わせたハイブリッド開催となりましたので、昨年に引き続き、事務所で希望者を募り視聴をしました。

●事務所PCおよび各種ソフトの更新

公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金様より助成をいただき、事務所PCとオフィスソフトの更新を実施したほか、NPO会計基準に準拠した会計ソフトを購入しました。

●各種講演会・勉強会への参加

その他、以下の講演会・勉強会に参加しました。
・6月25日(土) 日本性感染症学会北海道支部総会・学術集会
・9月16日(金) 一般社団法人gidjp 日本性同一性障害と共に生きる人々の会/北海道支部主催 『性の多様性』セミナー
・10月9日(日) にじいろほっかいどう/プライドハウス東京主催 ネットワーク会議「LGBTQ+の人々を自殺の危機から救うために」
・12月10日(土) 社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部主催 HIV検査相談担当者研修会
・12月11日(日) イルファア釧路主催 『師走講演会』
・1月21日(土) 北海道LGBTネットワーク主催 Sexual Health Room -医療口座- PrEPの初心者向け基礎知識

2 事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の範囲 及び人数	支出額 (千円)
電話相談事業	エイズ電話相談	毎週火曜 19時～22時 ※1/3は休止	レッドリボンさっぽろ事務所	3人	195人	262
	電話相談員派遣 (札幌市)	毎週木曜 16時～20時 ※相談員はシフト制	札幌市内の公共施設	2人	非公開	147
HIV感染者・エイズ患者などに対する社会的支援サポート事業	HIV陽性者交流会 in HOKKAIDO	4月16日、6月18日、 12月17日(3回)	4/16・12/17 札幌市内公共施設 6/18 函館市内公共施設	2人	20人	19
キルトの製作及び海外への送付事業	キルト作成	6月・11月～3月 毎週火曜日 10:00～14:00	レッドリボンさっぽろ事務所	7人	—	105
HIV感染予防等に関する普及啓発事業	さっぽろレインボープライド ブース出展	9月17日(土) 12:00～17:00	南1条通西2丁目～西3丁目	2人	14,500人	61
	札幌市主催「ゲイ・バイ男性のためのエイズ検査」企画提案・広報・相談員派遣	9月27日(日) 10:00～17:00	札幌市白石保健センター	2人	44人	64
	ラジオ出演	5月3日(火)・5月10日(火) 11月15日(火)・11月22日(火) 11月24日(木)11月26日(土)	三角山放送局 11/26のみ STVラジオ	2人	—	0
	にじいろほっかいどう「ゆうそう検査」検査キット配布業務一部受託	9月19日・9月20日・10月2日 10月3日・10月9日・10月10日 12月12日	室蘭市民活動センター「きらん」 旭川市民文化会館 函館市公会堂・函館市地域交流まちづくりセンター 札幌市北区民センター・札幌市白石区民センター	4人	にじいろほっかいどうと合わせて224人	99
	世界エイズデーをきっかけに～コミュニティセンター&居場所をつなぐ～出演	12月3日(土)	オンライン	1人	—	0
	札幌市エイズ対策推進協議会出席	2月21日(火)	札幌市保健所	1人	—	0
	さぽーととほっと基金パンフレットラック配架	通年	イオンモール札幌苗穂店 イオンモール札幌寒店	1人	60人	1
	ホームページ・ブログ・ツイッター等の運営・管理	通年		1人	—	0
	コミュニティセンターZEL主催「HIV陽性者と語ろう」	10月1日(土)	オンライン	1人	8人	0
講演事業	エイズ出前授業	11月16日(水)	斜里町立知床ウトロ学校	2人	24人	12
	エイズ出前授業	12月1日(木)	江別市立江別第二中学校	2人	77人	3

NPO 法人レッドリボンさっぽろ 2022 年度活動内容報告

1. エイズ電話相談

毎週火曜日 19:00～22:00 にフリーダイヤルにて実施しています。長引く緊急事態宣言やまん延防止措置により 2022 年度の相談件数は 2021 年度から 15 件減少し 195 件となりました。新しい予防方法である PrEP や PEP に関する相談も増えています。

(画像はイメージです)

また、2022 年度は例年助成頂いている札幌市さばーとほっと基金の一部を活用し、エイズ電話相談の広報資材も作成いたしました。

2022 年度は久しぶりに相談員の勉強機会を実施しました。勉強会のテーマは生命保険の種類や告知義務についてでした。



2. キルト製作

活動メンバーの多くが高齢のため、長引く緊急事態宣言等で、2022 年度も大半を各自自宅での製作となりました。製作した作品は、オークションや個人売買をし、収益をアフリカにて HIV 陽性者や遺児支援を行う NPO 法人 PLAS 様に寄附しています。

(画像は 2018 年に撮影したものです。)



3. HIV 陽性者交流会 inHOKKAIDO

HIV 陽性者の相談場所のひとつとして、そしてコミュニケーションの場として HIV 陽性者交流会 inHOKKAIDO を開催しています。2022 年度は札幌のほか地方開催として 6/18(土)に函館、10/15(土)に帯広・2/18(土)に旭川を計画しましたが、帯広・旭川は申し込みがなく開催を中止しました。また札幌で実施予定だった 8/20 は緊急事態宣言発令のため中止をしたため、結果 3 回の開催となりました。(画像は 2020 年 2 月撮影)

(参加人数 4/16(札幌):7 名、6/18(函館):5 名、12/17(札幌):8 名)



4. エイズ出前授業の実施

11月16日(水) 知床町立知床ウトロ学校と
12月1日(木) 江別市立江別第二中学校にて
エイズ出前授業を実施しました。
知床ウトロ学校様では7~9年生(中学1~3年生)
24名と、教職員の皆さまに、
江別第二中学校様では中学3年生77名において実
施しました。



5. HIV 陽性者と語ろうオンラインイベントへの登壇

10月1日(土) 仙台のHIVコミュニティセンターZEL主
催により、HIV 陽性者と語ろうが開催され、当会からミツ
ルさんがオンラインで登壇しました。今回は初のオンライ
ン開催となり、長野県から参加された方もいらっしゃいま
した。普段なかなか聞くことのないHIV 陽性者の生活など
をお話ししました。

HIV 陽性者と語ろう
2022年
10月1日(土)
19:00~20:30
Online
オンライン

HIV 陽性者のゲストをお迎えして
HIV/AIDS に関する
素朴な疑問に答えていただきます。
Uchi についてどう思う？
陽性者生活でどんな話が出るの？
HIV の薬と飲み合わせで気を付けることは？
などなど、
よくある疑問から、ちょっぴりディープな話まで、
ゲストの方と華園に語り合います。

ゲスト
レッドリボンさっぽろ
ミツルさん

ZOOM
ミーティング ID 874 5483 4136
パスコード ZEL1001

ZEL からの参加も可能です。
オンライン参加がない方は ZEL にお集まりください。
community center ZEL
仙台青葉区広瀬町 3-3-5 リスズビル 9F
community center ZEL は HIV / AIDS の啓発活動を目的とした
NPO 法人です。

community center ZEL

6. さっぽろレインボープライド参加

9月17日(土)~9月18日(日) 実施。
9月17日(土) は歩行者天国となった南1条通
の西3丁目にブースを出展し、コンドームなどの
配布と性に関するアンケートを実施しました。
総動員数は14,500人(さっぽろレインボープ
ライド実行委員会発表)
また、さっぽろレインボープライドHPに下のバ
ナー広告も掲載しました。



7. 札幌市ゲイ・バイ男性向けエイズ検査会協力（広報・相談員派遣）

9月25日（日）10:00～16:00

札幌市白石区保健センターにて実施

例年さっぽろレインボープライド関連イベントとして開催。毎年レッドリボンさっぽろでは、検査会の広報と、検査会へ相談員の派遣を実施しています。

2022年度についてはコロナ禍直前の2019年度と同じ10:00～16:00で実施をしました。受検者数44名、相談件数はこれまでで一番多い4件となりました。



8. ラジオ出演

STV ラジオにて好評放送中の『Knock on the Rainbow』 11月26日（土）放送にミツルさんがゲストとして出演し、HIV陽性者として自身の話や治療の話、陽性者が抱える課題などをお話しました。

また、5月6日のゴムの日、12月の世界エイズデーに合わせて、事務局長の沼田が5月と11月に札幌市内の三角山放送局の「にじいろスマイルラジオ」および11月24日（木）に三角山放送局の「ピンクリボン in Sapporo」に出演し、基礎知識の話やU=Uなどの最新情報などをお話しました。



9. にじいろほっかいどう「ゆうそう検査」配布協力

厚生労働省研究班の研究事業の一環としてHIV検査キットを配布するという事業を2022年も実施しました。

北海道内ではLGBTに関する活動団体「にじいろほっかいどう」が請け負い、札幌市の一部及び旭川市・函館市に加え、新たに室蘭市での配布を、レッドリボンさっぽろが協力して実施し、広大な北海道の予防啓発の一助となりました。

実施日：8/28 室蘭市内

9/3・9/4 札幌市内

9/10・9/11 函館市内

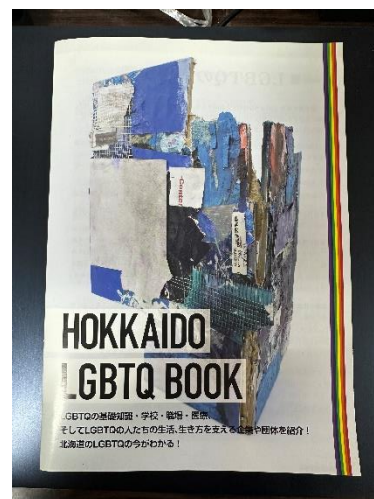
10/1・10/2 旭川市内

検査キットはにじいろほっかいどうとあわせて、北海道内で224名に配布しました。

また、研究班の班会議が3月に東京で開催され、事務局から沼田・秋山で参加しました。

10. HOKKAIDO LGBTQ BOOK 製作協力

北海道 LGBT ネットワークのメンバーでもあるにじいろほっかいどうよりお声がけいただき、北海道 LGBT ネットワークにて製作した HOKKAIDO LGBTQ BOOK にレッドリボンさっぽろを掲載していただきました。この冊子には北海道内の LGBTQ+ の各団体が掲載されているほか、医療者との対談なども掲載されています。



11. 第36回日本エイズ学会への参加

現地開催・ライブ配信：11月18日(金)～11月20日(日)
オンデマンド配信：12月1日～12月20日

2022年度も現地開催も合わせたハイブリッド開催となりました。2022年度はMSM研究班から旅費の支援をいただき、1名が現地で参加し、昨年までと同様に事務所でオンライン視聴を行いました。



12. 日本性感染症学会北海道支部総会・学術集会への参加

日本性感染症学会北海道支部総会・学術集会が6月25日(土)に開催され、当会からは事務局長の沼田が参加しました。



13. 北海道の HIV/AIDS の感染状況・検査の実情（ギリアドサイエンシズ様主催）

抗 HIV 薬を製造・販売するギリアドサイエンシズ株式会社が主催した『北海道の HIV/AIDS の感染状況・検査の実情』ラウンドテーブルが、11/7 札幌パークホテルで開催されました。北海道内での HIV に対する差別・課題を解決するため、道内の医師・HIV 関連団体に加え、道議会議員・札幌市議会議員・地方公共団体職員などが参加しました。

当会からは事務局長の沼田が、当会の活動紹介とサークルさっぽろ・にじいろほっかいどうとの連携等について発表しました。（画像は当日会場に設置された頭でっかち解消ボックスと会場の様子）



14. 世界エイズデーをきっかけに～コミュニティセンター&居場所をつなぐ～出演

12/1 の世界エイズデーに合わせて実施されている TOKYO AIDS WEEKS 関連イベントの一つとして、HIV 支援団体である認定 NPO 法人ぷれいす東京が 12/3 に『世界エイズデーをきっかけに～コミュニティセンター&居場所をつなぐ』というオンライン番組を配信し、レッドリボンさっぽろも出演いたしました。HIV 関連団体だけではなく全国で LGBT 当事者の居場所作りを進めている団体の紹介をする内容で、生配信の他、Youtube のぷれいす東京チャンネルにてアーカイブ配信されており、4/16 現在で約 270 回再生されています。



15. HIV 検査相談担当者研修会

社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部が主催した HIV 検査相談担当者研修会が 12/10（土）にオンラインと会場参加のハイブリッド形式で開催され、当会からは相談員の秋山と長谷川が参加しました。

16. Sexual Health Room -医療口座- への参加

PrEP の初心者向け基礎知識 講演会が北海道 LGBT ネットワークの主催により 1 月 21 日（土）に開催され、当会からは沼田と秋山で参加しました。PrEP の知識については今年から札幌で PrEP の処方をはじめられた『宮の森レディースクリニック』の池田詩子先生が、性感染症については札幌中央病院泌尿器科医の市原浩司先生講師でお話いただきました。本講演にあたり当会から PrEP in Japan 作成の「日本における HIV 感染予防のための曝露前予防（PrEP）」の利用の手引き、および利用者ガイドをご提供しました。



17. LGBTQ+の人々を自殺の危機から救うために への参加

10 月 9 日（日）に、にじいろほっかいどうと、プライドハウス東京が主催で開催されたネットワーク会議「LGBTQ+の人々を自殺の危機から救うために」が開催され、札幌こころのセンター様や北海道いのちの電話様などが登壇されました。当会からは秋山と小笠原が参加をし、相談において心がけていることなど貴重なお話を伺うことができました。



18. 『性の多様性』セミナー への参加

9月16日(金)に一般社団法人gid.jp 日本性同一性障害と共に生きる人々の会/北海道支部主催により、『性の多様性』セミナーが開催され、トランスジェンダー当事者の遠藤まめたさんと、GID認定医である池田^{ひろし}官司先生からご講演頂きました。当会からは沼田と秋山が参加しました。



19. イルファァー釧路主催『師走講演会』への参加

イルファァー釧路が例年実施している師走講演会が12月11日(土)にオンライン開催され、モヨチルドレンセンターの佐藤南帆さんとイルファァーの創設者で、医師の稲田頼太郎さんからケニアの現状やまだまだ医療が行き届いていないケニア西部についてお話しいただきました。当会からは沼田と秋山が参加しました。



20. 札幌市エイズ対策推進協議会出席

2月21日(火)札幌市保健所において札幌市エイズ対策推進協議会が開催され、委員である事務局長の沼田が出席しました。今回は対面での開催となり、札幌市における現状や2022年度の取り組みなどについて報告がありました。

21. 札幌市さぼーとほっと基金パンフレットラック配架

2022年度もイオンモール札幌苗穂店・イオンモール発寒店に設置をしました。

2020年度から実施していた、はたらく細胞小冊子の封入はご提供いただいたギリアド・サイエンス様と出版社とのライセンス契約終了に伴い2022年7月をもって終了しました。



発寒店の様子

苗穂店の様子

22. ホームページ・ブログ・Twitter・Facebookの定期更新

レッドリボンさっぽろでは独自ドメインを取得し、ホームページの製作は他社に委託せず全て自らが作成しています。

HP・ブログ・Twitter・Facebookを定期的に更新し、イベントなどの情報を発信しています。



23. 札幌市内にある民間 HIV 検査施設「サークルさっぽろ」協力

レッドリボンさっぽろでは 2007 年に開設した民間 HIV 検査施設「サークルさっぽろ」の広報担当をしており、レッドリボンさっぽろの HP にはバナーを掲載しています。また、開設以来ボランティアスタッフの派遣の協力もしています。



24. 事務所 PC および各種ソフトの更新

公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金様より 10 万円の助成金をいただき、事務所 PC を購入したほか、日本 NPO センターのパソコンソフト寄贈プログラム『techsoup』(テックスープ) を活用し Word・Excel・PowerPoint が利用できる『Microsoft Office 2016 スタンダード』と、NPO 向けの会計ソフトである『会計王』を購入しました。



2022年度活動計算書

会計 堂前 智代

(単位:円)

勘定科目	2022年度予算	2022年度決算	備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
会費区分			
正会員費	60,000	48,000	
賛助会員費	88,000	59,000	
キルト会員費	20,000	17,500	2023年3月現在キルト会員7名
受取会費計	168,000	124,500	
2. 受取寄付金	500,000	337,570	
3. 受取助成金			
エイズ予防財団	0	0	
さぽーとほっと基金	0	0	2022年度分は精算払いとしたため次年度に入金
イオン黄色いレシート	51,200	51,200	2022年4月贈呈分
その他助成金	0	100,000	コープさっぽろ社会福祉基金よりPC購入費等で10万円
受取助成金計	51,200	151,200	
4. 事業収益			
陽性者支援事業(ななかまど)	16,500	10,000	陽性者交流会 参加費@500 対面実施3回
電話相談事業	290,000	213,740	LGBTほっとライン
キルト事業	80,000	95,386	ヤフオクなどでの販売
普及啓発事業	50,000	265,617	ゆうそう検査・サークルさっぽろバナー広告料・MSM検査会
講演事業	0	70,010	知床ウトロ学校・江別第二中学校・ギリアドサイエンス講演謝金
事業収益計	436,500	654,753	
5. その他収益			
受取利息	5	5	利息
雑収入		0	
その他収益計	5	5	
経常収益計	1,155,705	1,268,028	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	130,000	113,850	LGBTほっとライン・ゆうそう検査・講演手当
人件費計	130,000	113,850	
(2) その他経費			
旅費交通費	198,700	120,101	LGBTほっとライン・エイズ電話相談・ゆうそう検査・講演交通費
通信費	150,000	138,781	フリーダイヤル料など
印刷製本費	52,000	98,200	電話相談広報資材・MSM検査会WEB広告制作費
材料費	17,000	23,192	キルト材料費
会議費	15,000	23,133	交流会会場費・ゆうそう検査会場費
荷造発送費	22,300	44,579	電話相談リスト発送費・キルト販売発送費
事務消耗品費	2,290	0	
消耗品費	11,900	68,787	ゆうそう検査・さっぽろレインボープライドブース備品等
業務委託料	0	0	
広告宣伝費	50,000	50,000	さっぽろレインボープライドバナー広告費
諸謝金	5,000	0	
複写費	500	0	
支払手数料	15,050	14,798	キルト部門ヤフオク!各種手数料
雑費	77,700	77,700	キルト PLASさんへの寄付・2020年度さぽーとほっと基金返金
その他経費計	617,440	659,271	
事業費計	747,440	773,121	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	0	0	
人件費計	0	0	
(2) その他経費			
地代家賃	180,000	180,000	家賃
水道光熱費	82,000	95,102	水道¥40,920・電気¥54,182
消耗品費	90,000	166,977	事務所PC・オフィスソフト・会計ソフト・ゴミ箱・空気清浄機等
支払手数料	1,000	1,320	クレジットカード決済手数料
荷造発送費	0	0	
研修費	10,000	0	
保険料	9,000	11,030	ボランティア保険料・事務所火災保険料(2年分)
交際費	5,000	0	
租税公課	0	950	登記簿謄本取得など
雑費	0	0	
その他経費計	377,000	455,379	
管理費計	377,000	455,379	
経常費用計	1,124,440	1,228,500	
当期正味財産増減額	31,265	39,528	
前期繰越正味財産額	922,812	922,812	
次期繰越正味財産額	954,077	962,340	

2022年度エイズ電話相談事業報告書

■ 概要 1995年1月から開始し、毎週火曜日夜7～10時に、相談員が交代でローテーションに入り、電話相談を行っている。
2022年度は、相談員3人(沼田・秋山・長谷川)体制で相談を受けた。

■ 目的／経過 HIV感染に対する不安を持つ人、感染後のサポートを求める人に対する相談。

■ 結果／効果 2022年4月～2023年3月の電話相談集計結果

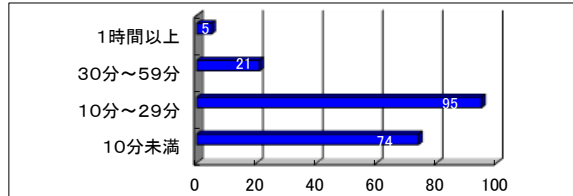
合計件数 195件

1、時刻

時刻	件数	割合
7:00～8:00	91	46.7%
8:00～9:00	56	28.7%
9:00～10:00	48	24.6%
合計	195	100.0%

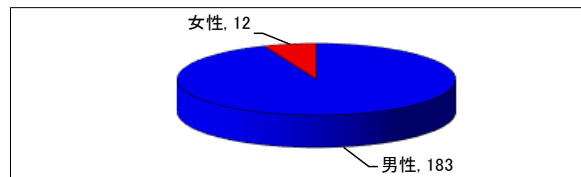
2、時間

時間	件数	割合
10分未満	74	37.9%
10分～29分	95	48.7%
30分～59分	21	10.8%
1時間以上	5	2.6%
合計	195	100.0%



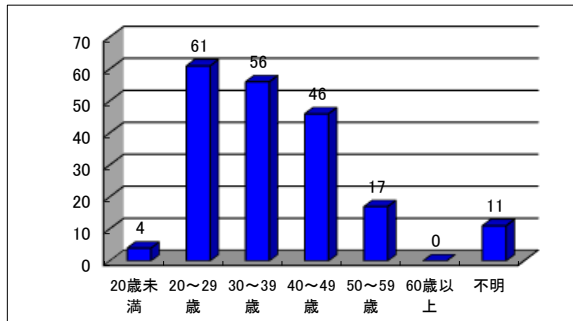
3、性別

性別	件数	割合
男性	183	93.8%
女性	12	6.2%
他	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	195	100.0%



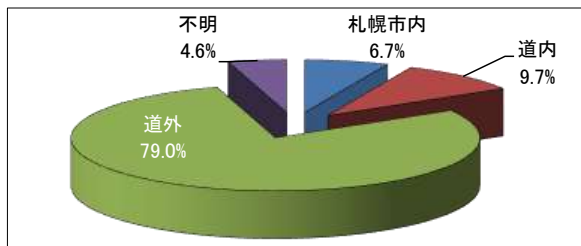
4、年齢

年代	件数	割合
20歳未満	4	2.1%
20～29歳	61	31.3%
30～39歳	56	28.7%
40～49歳	46	23.6%
50～59歳	17	8.7%
60歳以上	0	0.0%
不明	11	5.6%
合計	195	100.0%



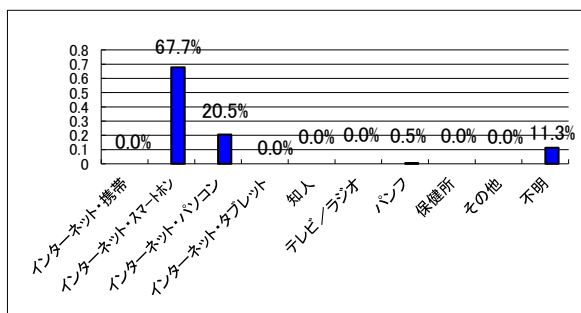
5、地域

地域	件数	割合
札幌市内	13	6.7%
道内	19	9.7%
道外	154	79.0%
不明	9	4.6%
合計	195	100.0%



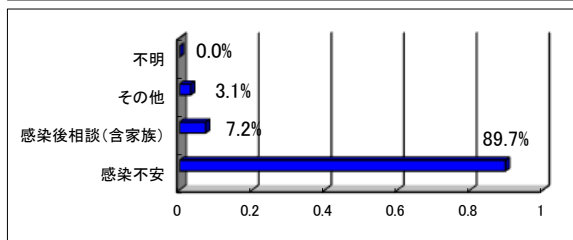
6、情報源

情報源	件数	割合
インターネット・携帯	0	0.0%
インターネット・スマートフォン	132	67.7%
インターネット・パソコン	40	20.5%
インターネット・タブレット	0	0.0%
知人	0	0.0%
テレビ／ラジオ	0	0.0%
パンフ	1	0.5%
保健所	0	0.0%
その他	0	0.0%
不明	22	11.3%
合計	195	100.0%



[相談内容]

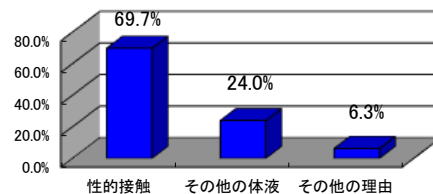
相談内容	件数	割合
感染不安	175	89.7%
感染後相談(含家族)	14	7.2%
その他	6	3.1%
不明	0	0.0%
合計	195	100.0%



1、感染不安の不安要因

※相談内容「感染不安」の内の不安要因

	件数	割合
性的接触	122	69.7%
その他の体液	42	24.0%
その他の理由	11	6.3%
合計	175	100.0%



2、検査についての相談

	件数
あり	67
なし	108
合計	175

3、他の性感染症についての相談

※不安要因が「性的接触」の内の相談

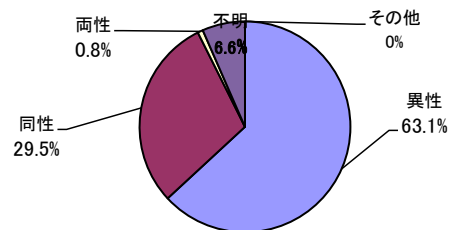
	件数
あり	17
なし	158
合計	175

4、エイズ不安症候群

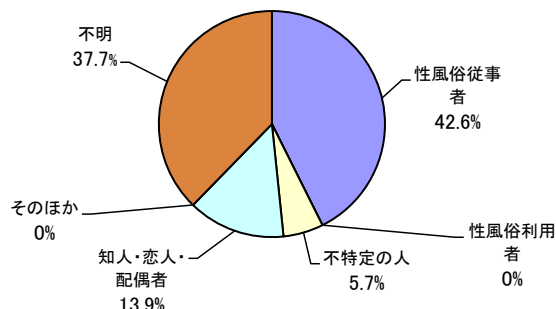
	件数
あり	11
なし	164
合計	175

5、性行為の相手

	件数	割合
異性	77	63.1%
同性	36	29.5%
両性	1	0.8%
不明	8	6.6%
その他	0	0.0%
合計	122	100.0%



	件数	割合
性風俗従事者	52	42.6%
性風俗利用者	0	0.0%
不特定の人	7	5.7%
知人・恋人・配偶者	17	13.9%
その他	0	0.0%
不明	46	37.7%
合計	122	100.0%



6、行為内容※コンドームに関して

	不使用	最初から使用	途中から使用	さけた・はずれた	つけた・つけたかったり	不明
膣性交	25	15	2	0	1	0
肛門性交	10	0	0	1	2	0
フェラチオ	25	6	0	0	0	4
クニニリングス	7	0				
素股	12					
キス	15					
その他	29					

※月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前期計	10	19	12	13	23	14
後期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間計	19	17	15	12	24	17

前期計 91
後期計 104
年間計 195

■分析

・件数は昨年度の210件(一日平均4.2件)から195件(一日平均3.8件)と年間受付件数は減少した。
(昨年度は年間50回、今年度は年間51回の相談受付日数)
新型コロナの第6波～第8波のピークから収束にかけて自粛ムードの高まりから性交渉の機会が減ったことが相談件数の減少につながったと考えられる。
また、第6波～第8波にかけての相談では、新型コロナの自己検査キットで陰性だったことからHIVの初期症状を疑っている相談もみられた

・国内でのPrEPおよびPEP(nPEP: 性行為による暴露後予防)を診断・処方するクリニックが広がり、2023年1月には札幌市内でPrEPを処方するクリニックができた。
しかし処方されているクリニックでのフォローが十分とは言えないケースもあり、今後もPrEP・PEPに対する知識の拡充と適切な対応を当電話相談では心がけていきたい。

・情報源としては、インターネット(携帯・スマホ・PC・タブレット)からが87%を占めている。当会ではインターネットでのアクセス向上を目指しているが電話相談件数の回復には至っていないため、今年度はさぼーとほっと基金を活用して広報資材を制作した。
次年度以降イベント等で配布を行い、さらなるアクセス向上に努めたい

・2022年度の相談員は3名体制を維持できた。引き続き受話体制の整備及び受話品質向上に努めていきたい。
次年度からは相談員1名の転勤により、再び2名体制となるため、新たな相談員の確保・育成が急務となっている。

当事者共生事業 “ななかまど Project” 報告

担当者: 秋山 満

●概要:

HIV 陽性者とその家族・パートナー・周囲の人の精神的な支えとなり、地域に根ざした情報を提供していくことを目的に

○HIV 陽性者のための面談ルーム 「くれば一緒に」 を実施している。

また、北海道 HIV 陽性者ピアグループミーティング事業「HIV 陽性者交流会 in HOKKAIDO」を 2014 年 6 月より定期開催。

※2022 年度も日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス様から協賛をいただいた。

●目的:

北海道に暮らす HIV 陽性者が「今よりもっと元気になるために必要としていること」を共に考え、形にしていける。

●経過:

- ・「くれば一緒に」 予約制 毎月第 2・第 4 日曜日 13:00-15:00
- ・「HIV 陽性者交流会 in HOKKAIDO」 2022 年度は地方開催実施を計画
 - ＜札幌開催＞ 2022 年 4 月 16 日(土)・8 月 20 日(土)・12 月 17 日(土)
 - ＜地方開催＞ 6 月 18 日(土):函館 10 月 15 日(土):帯広 2023 年 2 月 18 日(土):旭川

●結果・効果:

- ・ 2022 年度において「くれば一緒に」の利用は無かった。
- ・ 「HIV 陽性者交流会 in HOKKAIDO」 2022 年度の参加延べ人数は 20 名。(昨年度は全 3 回で 24 名)
 - ＜札幌開催＞8 月 20 日(土)は新型コロナ感染拡大の影響により開催中止
 - 4 月 16 日(土)は 7 名、12 月 17 日(土)は 8 名の参加があった。
 - ＜地方開催＞6 月 18 日(土):函館開催は 5 名の参加があったが、10 月 15 日(土):帯広開催は 1 名、2023 年 2 月 18 日(土):旭川開催は申込がなく、帯広・旭川開催については中止とした。

●課題:

- ・ 札幌へのアクセスが難しく、支援の届かない陽性者へ新たなアプローチとして、2022 年度の「HIV 陽性者交流会 in HOKKAIDO」は長年検討していた地方開催をはじめて実施した。
- ・ しかしコロナ禍ということもあるが、地方開催における参加申込は不調に終わった。
全国の交流会を実施する他団体からは、地域によっては未だ陽性者交流会に対し否定的に捉えている拠点病院があるとの情報もあり、広報はもちろんのこと、道内各地の拠点病院とのコミュニケーションについても行う必要があると感じる。
- ・ リピーターの方の中には毎回の交流会を楽しみにしているとの声もあり、陽性のことを気にせず話せる機会として役に立っている。
- ・ 一方、新規の方へのフォローが弱かった。身内同士の近況報告ばかりとならない工夫は必要。
- ・ 新規の方がいる際は、医療情報など真面目な情報交換も一定程度設けるべきかもしれない。
- ・ HIV 陽性者交流会 inHOKKAIDO については 2023 年度も、日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス様から協賛をご了承いただいている。
- ・ 「くれば一緒に」の利用についてはここ数年ゼロの状態が続いている。事前予約をした上で対面での相談というハードルもあるため、今後は zoom などの web コミュニケーションツールを活用したオンライン相談や、事前に日時を定めて実施するオンライン相談会についても検討をしていきたい。

キルト部門 活動報告

報告:キルト会員 佐々木 一世

●2022 年度活動目標の結果

1.キルト作品の制作

- ・コロナ感染者数確認の上、各自、自宅と事務所で並行制作
4月～7月 事務所で制作
8月～10月 自宅で制作
11月～3月 事務所制作 事務所制作になり作業がスムーズ
- ・オーダー3点受注
1) 2022 年9月 11 日 引き渡し済
2) 2023 年3月 13 日 発送済
3) 2023 年4月 引き渡し予定
- ・ヤフオク 9点出品 8点落札
- ・不落札作品の一部を活かして制作中
- ・個人販売の収益あり

2.キルト作品の販売収益の維持・増加

- ・昨年度より出品作品数が少なく厳しかった
- ・出品作品のスタート価格をアップした
- ・イベント開催が少なく、個人販売の売り上げ期待度は低下

3.NPO 法人エイズ孤児支援、NGO・PLAS を通しての寄付

- ・年2回、1回につき 30,000 円
- ・4月8日:30,000 円、10月10日:30,000 円 合計 60,000 円で目標達成

4.コロナ禍自粛時、各自制作の継続

- ・個人制作の写真撮影と落札者への発送は、会員協力のもと良く出来た
- ・意欲的製作の表れによる手・指に支障が生じている会員が数名出た

●2022 年度の課題・その他の結果

1.ヤフオクでの入札率アップの検討

- ・入札率にはつながらなかったが、
同一入札者
良い評価
応援メッセージをいただいている

2.会員増加の検討

- ・自宅制作作品が順調に多く仕上がっているので会員増加は見送りとなった
- ・キルト部門継続のために、作品制作は無理せず会員同士の協力で行われている

◎2023 年度の活動目標

1. キルト作品の制作

- ・オーダー作品の受け渡し(完成済)
- ・寄付されたサンプラーキルトキッドの完成
- ・クリスマス用作品の完成
- ・キルト会員高齢化のため無理せずに継続していければ良い

2. キルト作品の販売収益の維持・増加

3. NPO 法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS を通じての寄付
年 2 回、1 回につき 30,000 円

◎2023 年度の課題・その他

1. 在庫中の生地を活かし方
2. 新しい生地購入の検討
3. 制作作品のアイデアさがし

以上

2022 年度キルト部門 ヤフオク！ 出品作品

出品日/品名	商品画像	金額等	出品日/品名	商品画像	金額等
2022/5/14 出品 ロックガーデン (120 cm×120 cm)		開始 8,000 円 落札 8,000 円	11/11 出品 森のサンタ達 (122 cm×113 cm)		開始 5,000 円 落札 5,000 円
7/13 出品 ヘキサゴン おばあさんの花園 (115 cm×109 cm)		開始 5,000 円 落札 5,250 円	11/30 出品 ロックガーデン (108 cm四方)		開始 5,000 円 落札 5,000 円
7/21 出品 キティちゃんのベ ビーキルト(121. 5cm×118cm)		落札されず	3/8 出品 りんごがいつば い (108 cm × 104 cm)		開始 6,000 円 落札 6,800 円
8/11 出品 タペストリー 「カラフルな鳥た ち」(100 cm四方)		開始 8,000 円 落札 8,000 円	オーダー作品 オハイオスター 9 月に 15,000 円で販売		
8/30 出品 「スクエア」のパ ターンを中心に (73.5 cm×66 cm)		開始 2,500 円 落札 2,500 円	オーダー作品 ソファカバー ヘキサゴン (150 cm × 128 cm) 15,000 円で販売		
9/18 出品 大判ナインパッチ (147 cm×95 cm)		開始 8,000 円 落札 8,250 円	入金は、この金額に送料がプラスされています。		

講演部門 報告

報告：沼田 栗実

担当者 エイズ出前授業：沼田 HIV のリアルを伝える：秋山

●概要：学生、専門職（病院・企業・行政・介護施設・社会福祉施設・就労移行支援施設などを含む）、保護者向け講演をおこなう。

●目的：HIV/エイズに関する知識の普及により、HIV 陽性者への理解促進、予防意識の向上を目指す。
年齢に合わせた性の健康教育を実施し、心身の大切さ、守り方を伝える。
HIV に感染する仕組み、HIV 陽性者の通院・治療・医療費、最新の HIV 治療の常識や HIV 陽性者の抱えている問題などについて、生の声を伝える。

●経過：

- ① 2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行により、どこも外部講師を呼ぶことや出向くことが難しい年であったが、網走保健所からのご紹介で知床ウトロ学校から、また江別保健所より江別第二中学校への依頼があり、エイズ出前授業を行った。
- ② 上記講演に向けて、講演スタッフで複数回集まり、講演内容について話し合う機会を持てた。
- ③ 「HIV のリアルを伝える」では、例年、依頼いただいている仙台のコミュニティセンター ZEL から依頼があり、「HIV 陽性者と語ろう」に参加できた。

●結果・効果：

- ① 2022 年度も引き続き、COVID-19 感染症の影響も受けながらも、2 件の講演の依頼があり、実施することができた。
- ② 知床ウトロ学校では、7 年生～9 年生を対象の生徒向け授業と教職員向けの授業の 2 つの依頼があり、それぞれの依頼内容に合わせて実施した。遠方であることや予算の都合なども考慮し、初めてオンラインでの講演を実施した。事前にコンドームの正しい着け方の実践セットを送付し、画面越しではあったが、参加型の講演を実施できた。
- ③ 江別第二中学校では、中学三年生を対象に保健授業「性感染症の予防」「エイズの予防」という内容で講演を実施した。座学を修了したスタッフが、アシスタントとして講演プログラムの一部のセクションを担当することができた。
- ④ COVID-19 感染症の影響を受けた 2 年だったが、その中でも、保健所からの紹介で繋がったり、保健所から直接依頼があったり、北海道内の関係部署と繋がり、講演ができた。
- ⑤ スタッフの繋がりもあり、道外のコミュニティセンターからお声かけがあり、2022 年度も参加し、HIV 陽性者のリアルを伝えられる機会を持てた。

●課題：

- ① 講演依頼がない年が続いていたため、スタッフのスキル維持を懸念していた。アシスタントを含め、講演経験を重ねるのが難しい環境でもあるため、今後もさまざまなテーマ、さまざまな講師で、スタッフのスキルアップにつながるミニ内部勉強会を引き続き開催していきたい。
- ② 実際の講演の質を保つためにも、講演の前に必ず練習の位置づけで、会の中で披露する時間を持つように徹底できるスケジュールで調整していく必要がある。
- ③ 初の試みとしてオンラインを利用した講演ができた。リアクションが見えにくかったり、ワークの限界があることなど課題はあるが、道内の遠方からの講演依頼や予算のことも鑑み、今後も都度、検討しながら取り入れていきたい。
- ④ スタッフ間でコミュニケーションを綿密に取れるよう、2023 年度も年に 1～3 回くらいの頻度で、Zoom やスカイプ等を利用しながら、話し合いの場を設け、情報共有をして行く。
- ⑤ 平日に活動できる講演スタッフの獲得と継続的なスタッフ育成を引き続き行っていく。

- ⑥ 引き続き、講演先の依頼条件の検討（随時）と講演部門のHPの内容改訂を検討する。また、現在、HPから簡単にアクセスする方法がないため、外部から講演活動に対して、Google フォームなどを使用しながら、アクセスしやすい環境を作っていく、積極的に広報を考えて行く。

※2022年度の講演部門実績

● エイズ出前授業

実施日	主催	講演内容等	講師
2022年10月1日	コミュニティセンターZEL (宮城県仙台市)	※Zoomを利用したオンライン HIV 陽性者と語ろう	秋山 満
2022年11月16日	斜里町立知床ウトロ学校 7年生～9年生 対象 教職員 対象	※Google Meet を利用したオンライン エイズ予防&性的マイノリティ 性教育と性的マイノリティ	沼田 栗実 生田 多賀子
2022年12月1日	江別市立江別第二中学校 中学3年生 対象	「性感染症の予防」「エイズの予防」	沼田 栗実 秋山 満(アソシエイト)

アウトリーチ報告

担当者：沼田 栗実

● 目的:

HIV/エイズに関する問題について、イベントなどを通じ、「考える」「知る」きっかけを提供する。

● 経過:

- ① 2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症の影響を受け、定例で参加していたイベントへの参加ができないものもあり、ブース出展が 1 回しかできなかった。
- ② さっぽろレインボープライドには、2 年振りにブース出展ができ資料やコンドームの配布だけではなく、「コンドームおよび性に関するアンケート」を実施した。
またブースでは、SCORA 北海道の学生さんがボランティアで協力してくださった。
- ③ ブース出展では、オーガニックハードローション、Fintom (指用のコンドーム) を企業様よりご提供いただき、配布した。また、トリップスキン (オーラルセックス用コンドーム) も購入し、ブースで配布した。コンドームもサイズ別、素材別など、種類があることを情報発信し、自分にあったコンドームや方法を考えるきっかけづくりの時間を持てた。
- ④ イベントでのブース出展だけではなく、ラジオを通じて、HIV/エイズについての正しい知識など情報を提供・発信する事ができた。
- ⑤ 札幌市主催「ゲイ・バイ男性向け 即日 HIV 検査」の広報と相談員派遣を行うことができた。
- ⑥ 2022 年度も引き続き、MSM ALL JAPAN の研究 (ゆうそう検査キットの配布事業) に協力できた。
- ⑦ 世界エイズデー札幌実行委員会主催の企画に参加することができた。
- ⑧ さっぽろレインボープライド実行委員会、SCORA 北海道、にじいろほっかいどう、世界エイズデー札幌実行委員会、にじいろスマイル、ピンクリボン in Sapporo 等、他団体と共に活動できた。

● 結果・効果: 実施イベント等

- ① イベントについては以下の通り、参加・協力した。

日付	参加イベント・参加スタッフ人数等
2022 年 5 月 3 日 (火) 5 月 10 日 (火)	にじいろスマイルラジオ@三角山放送局 5 月 6 日はゴムの日! HIV の予防や検査についてのおはなし。 スタッフ参加 1 名
2022 年 9 月 17 日 (土)	さっぽろレインボープライド ブース出展 スタッフ参加 4 名 (当日まで準備も含む)
2022 年 9 月 25 日 (日)	札幌市ゲイ・バイ男性向けエイズ検査会協力 (広報・相談員派遣) スタッフ 2 名 (相談員 1 名 準備手伝い 1 名)
2022 年 8 月～10 月	厚生労働省研究班 (MSM ALL JAPAN) の「ゆうそう検査」検査キット配布協力 (一部業務委託) MSM ALL JAPAN のメンバー「にじいろほっかいどう」と協同で実施。当会は、8/28 (日) 室蘭、9/3 (土)・4 (日) 札幌、9/10 (土)・11 (日) 函館、10/1 (土)・2 (日) 旭川を担当。他、にじいろほっかいどう担当分も含め 北海道内で 224 名に配布。 スタッフ参加 3 名
2022 年 11 月～12 月	世界エイズデー札幌実行委員会企画への協力 ① ラジオ出演 スタッフ参加 1 名

	11/26(土)「Knock on the Rainbow」@STV ラジオ
②	ラジオでの広報 スタッフ参加 1名
	11/15(火)「にじいろスマイルラジオ」@三角山放送局
	11/22(火)「にじいろスマイルラジオ」@三角山放送局
	11/24(木)「ピンクリボン in Sapporo」@三角山放送局
③	レッドリボンスタディー 協力 スタッフ参加 1名

- ② その他、イベント参加・ラジオでの発信というアウトリーチだけではなく、さっぽろレインボープライドでは公式 HP にバナー広告を掲載することで、情報発信することができた。
また、イベント時には、広報 T シャツを着用し、ブース対応等を行うことで、情報発信することができた。
- ③ 厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布協力では、札幌市外に住むスタッフに協力いただいた。
2022 年度全体を通して、事務局以外のスタッフやヘルプスタッフと一緒に活動ができた。

● 課題:

2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの活動となり、ブース出展においては、以前までつながりのあった北海道医療大学大学祭「九十九祭」への出展は難しく、「さっぽろレインボープライド」のブース出展のみとなった。

ブース出展の回数は、コロナ禍前に比べると減りましたが、ラジオを通して、HIV について伝える機会をたくさん持つことができた。

例年、世界エイズデーイベントの広報としてラジオ出演し、イベントの広報だけではなく、HIV の情報を発信してきたが、2021 年度に続き 2022 年度においても、12 月 1 日にエイズデーに限らず、5 月にも情報発信ができ、年間通じて、情報を発信していくことができた。各ラジオ出演をつないでくださり、分かりやすく伝えてくれたスタッフに、この場を借りて感謝いたします。

今後もラジオ等のメディア配信は引き続き行い、また、オンライン配信(SNSや Youtube 等)等、新しい形でのアウトリーチ活動を検討していく必要がある。

2022 年度も引き続き、にじいろほっかいどうと協力でき、研究班の事業にも取り組めた。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的にも保健所での検査数および検査機会が減少している中で、ゆうそう検査キットの配布を協力できたことは、検査機会の提供として、大きな活動だと考える。

この事業は、一部業務委託として、研究班からスタッフ対し謝礼金をいただいている。前年度に引き続き、研究班の事業に協力いただいたスタッフのみに、交通費以外に謝礼金の一部から手当をお支払いしているので、平等性に欠けないよう、手当基準を見直し、安定的に手当を支払えるようにしていくことが課題であるとする。引き続き、どのように資金を捻出していくか、アウトリーチ担当と事務局を中心に検討していきたい。

様々な要因が絡み、活動が制限される中ではあるが、HIV/AIDS について基礎的な知識だけではなく、最新情報を含め HIV/AIDS について理解を深められるよう、今後も色々な形で情報発信をしていきたい。

会計 部門報告

担当者:堂前智代 補佐:本庄真美子

報告:本庄 真美子

● 概要:

当会の収入、支出の管理をおこなう

● 目的:

- ・ 当会の事業が円滑に進むよう資金面の状況について把握し、提言する
- ・ NPO 法人としての会計の透明性を確保する
- ・ 会の資金使途の優先順位について、会員に問題提起する

● 経過:

- ・ 担当者が毎回運営会議に参加することができず、2 ヶ月に1回程度の運営会議の精算業務を行う 適宜関係先への振込み等を行う
- ・ 会計2人体制で実施
- ・ 決算で昨年度の決算書と現金が数百円合っていなかったことが判明した
- ・ 2020 年度に課題として上がっていた決算書類の形式改善について、コープさっぽろの助成金で新しい会計ソフトを導入することができ、NPO 法人としての提出書類の形式を整えることができた。
- ・ 2022年度もスタッフの尽力で地道に助成金を獲得し事業を行うことができた。予備費は依然として少ないが、ここ数年は収支のバランスを保っている。事務所移転後、家賃が半分以下に抑えられるようになったことも大きいと思われる。

● 課題:

- ・ 2021年度の決算書と現金が合っていなかったことを 1 年間気付かなかったことはたいへん問題と考えている。最終的な確認を複数人で行うことを徹底したい。
- ・ 年度末に一気に入力作業をするため、ミスが起こると考えられる。入力作業の頻度を増やして余裕を持ち業務に当たりたい。
- ・ スタッフが活動しやすいように会計の中間報告を行っていけるよう改善したい。

事務局報告

報告:沼田 栗実

部門概要: 事務局運営

(事務局スタッフ:代表…本庄／事務局長…沼田／事務局次長…秋山／会計…堂前・本庄)

- 目的: 月1回の運営会議、各事業の進捗管理、人材育成、事務所運営、管理など、会のスムーズな運営のために活動する。

<事務局の仕事>

- 1) 即決断が求められたときの決定機関
- 2) 運営会議の準備
- 3) 総会準備
- 4) 会計、資金繰り
- 5) 助成金の申請とその手配
- 6) メール・リングリストの管理
- 7) メールのチェック
- 8) NPO法人関連手続き
- 9) 全般的なコーディネート
- 10) 対外的な交渉など(マンション関連他)
- 11) 記録・写真・スクラップの整理・管理

● 経過:

- ① 月1回の運営会議は継続的に実施
- ② 会報は1回発行した
- ③ 事務局会議は適宜開催
- ④ 他団体、企業からの依頼に対応

● 結果・効果:

- ① 運営会議、事務局会議の実施
- ② 会報の発行 2022 年 4 月の 1 回発行
- ③ 助成金獲得 さぼーとほっと基金 10 万円(清算払のため、振込は翌年度)
bda セクシュアル・ヘルス次世代基金 20 万円(清算払いのため、振込は翌年度)
コープさっぽろ社会福祉基金「団体助成」 10 万円
- ④ 北海道 LGBT ネットワークより依頼があり「HOKKAIDO LGBTQ BOOK」の団体紹介に活動紹介を掲載していただいた。
- ⑤ ギリアド・サイエンス株式会社より依頼があり「ラウンドテーブル 北海道の HIV/AIDS の感染状況と検査の実情」にパネラーとして参加した。

● 課題:

2022 年度も、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響を受けながらの活動であったが、その中でも、活動に積極的に参加してくれたスタッフに、この場を借りて、お礼申し上げます。

① 事業面

2022 年度も引き続き、少ない人数で各部事業を実施していたこともあり、事務局活動は省力にならざるを得なかったが、その中でも、前年度に引き続き、札幌市主催「ゲイ・バイ男性のためのエイズ検査」の企画提案・広報・相談員派遣だけでなく、厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布事業に協力することができた。コロナ禍で HIV 検査数が伸びない中で、検査機会の提供の一助となったと考えている。また、2022 年度は、多くの団体・企業・行政機関のつながり、活動ができた年になったと感じている。

② 資金面

資金面では、さぼーとほっと基金、bda セクシュアル・ヘルス次世代基金については、清算払いになるた

め、振込自体は翌年度になるが、3 団体から助成を受けることができた。

コープさっぽろ社会福祉基金「団体助成」の獲得により、10 年近く使用していた事務所のパソコンと会計ソフトを新調することができた。

助成金だけではなく、講演や業務依頼に伴う講演料や謝金、キルト販売の収益、会員の皆さまによる会費納入の他、ご寄附もいただき、2022 年度も運営できた。

③ 運営面

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響も鑑み、短期目標の中に「参加しやすい勉強会を実施し、参加を促す」としていたが、変わらずのマンパワー不足により、内部の勉強会を企画・実施することは出来なかったが、スタッフそれぞれが、外部のオンライン研修等に積極的に参加し、研鑽につとめることもできた。市内はもとより、道内、全国の関係機関との連携も芽が出つつあると考えています。

新年度も、引き続き

(1)講演活動、電話相談のさらなる質の向上に注力する。

(2)陽性者交流会事業の継続開催を通じて、ネットワークを広げていく。

(3)次の20年を担う新規スタッフを計画的に育成するために、スタッフ募集と研修をおこなっていく。

(4)会の趣旨や考え方などをしっかり継承していける体制を作る。

(5)賛助会員や寄付者に向けた継続的なフォローや広報を引き続きおこなうのと同時に、助成金の安定的な獲得など資金面の基盤作りをする。

以上について、必要があると考え、まずは、短期目標達成を目指し、全スタッフで取り組んでいきたい。

最後に、新年度も引き続き、より多くのスタッフが、自分にあった関わり方で、活動に参加してほしいと考えている。「イベントに参加する」「事業の担当になる」という形だけではなく、イベントまでの準備や、ブログの更新、動画配信の構想・編集、資料の発送作業等々、細かい活動も多いので、できることをできる範囲で、関わってもらえるよう、事務局もメール・リスト等を用いて、呼びかけていきたい。正会員に限らず、ヘルプスタッフからも新しい提案(些細なことでも構いません)をたくさんしてほしいと考えているので、やりたいことがあれば相談できる事務局体制を築いていきます。よろしくお願いいたします。

2022 年度 総括案

代表代理 事務局長 沼田 栗実

2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症と上手に付き合いながらの活動になりました。前年度に引き続き、コロナ禍前と同じように活動することは難しい一年でしたが、感染予防対策を行いながら、出来ることを考え、実行してきたと思います。事業ごとに振り返り、総括していきたいと思います。

2022 年度は、以下の 3 つの短期目標を掲げ事業を行ってきました。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつなげる体制を構築していく。
- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、参加を促していくことで、「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
- ③ 活動の輪を広げるために、会員数の拡大に努める。

電話相談事業は、毎週火曜日の 19 時～22 時まで行っている当会でも長い歴史のある事業です。2022 年度は新しい相談員が育ち、電話相談員デビューしました。相談員が 3 名になり、より広い視野で相談を受ける環境が整ったと思います。COVID-19 感染症の影響もあり、電話相談の件数は以前ほど多くはなく、相談員のモチベーションの維持が難しい状況の中で、新しい相談員が育っていくことは、会として、とても嬉しいことです。新しい相談員が増えたこともあり、数年振りに電話相談員だけではなく、電話相談事業の担当スタッフ全員で勉強会も実施できたね。相談員自身が理解を深めたいことや知識を得たいという内容で実施し、相談員それぞれが研鑽を積むことができました。そんな中ですが、2023 年度は立派に育ってくれた相談員が自身のキャリアアップのため活動を離れます。相談員が 2 名になりますが、これからも言葉選びを慎重に、相談者に寄り添えるようにしていきましょう。

電話相談事業は、さぼーとほっと基金の助成を得て、2022 年度も事業を行うことができました。電話相談の件数は、以前ほど多くありませんが、それでも電話が鳴らないという日はありません。より多くの必要としている人に情報が届くよう、新しい電話相談の広報カードを電話相談事業の担当者全員で検討し作成しました。保健所や医療機関などの関係機関だけではなく、今後、イベントなどでも配布することで、より多くの必要としている人の手に渡ることを願っています。

また、当会の事業ではありませんが、札幌市の「LGBT に関する電話相談（以下 LGBT 相談）」に、引き続き相談員として関わっているスタッフがいます。LGBT 相談の内容は幅広く、当会の電話相談とは異なる難しさや大変さがある他、相談員も様々な所属から集まっているため、他団体の相談員と上手にコミュニケーションを取りながら、LGBT 相談の枠組みを大切にし、変わら

ず信頼される対応をしてくれている相談員に感謝いたします。

講演事業は、コロナ禍で外部講師などを招くことに躊躇される学校や施設が多い現状は変わりませんが、その中で2つの中学校にエイズ出前授業を行いました。

1つは、斜里町立知床ウトロ学校からの依頼です。知床ウトロ学校では、3年に一度、7年生～9年生(中学生)を対象にエイズに関する講話を保健所に依頼し実施しているのですが、このコロナ禍で保健所が講話をすることが難しく、当会が講演活動を実施していると保健所から担当の先生に紹介してくださったのがご縁で、2022年の初めから講演についての問い合わせがありました。本来であれば、学校にお伺いして、直接、生徒の皆さんとコミュニケーションを取りながらお話ししていきたいところではありますが、社会情勢や物理的な距離、スタッフの都合も鑑み、初めてオンラインでの出前授業を行いました。当日の担当スタッフ間では事前の打ち合わせを何度も重ね、学校側とも調整だけではなく事前回線テストも行い、当日何事もなく実施できたことは当会として、新しい一歩だと思います。

知床ウトロ学校からの講演依頼では、生徒を対象とした「エイズ予防&性的マイノリティ」の授業だけではなく、教職員向けに「性教育と性的マイノリティ」についての授業も行いました。初のオンラインでの講演活動でしたが、事前にコンドームの正しい付け方用のセットを学校に送付し、画面越しではありますが、先生方に対してコンドームの正しい付け方レクチャーを行うこともできましたね。当会の養護教諭の経験を持つ講演スタッフから、その経験を生かした内容で伝えられ、教頭先生からも「今まで他の先生方と性について話す機会がなかった」と、先生方にとっても、当会にとっても、いい経験になったと思います。オンラインを閉じた後にも、生徒に対するセクシュアリティへの配慮についての相談の電話もあり、スタッフの経験にもつながったと思います。初の試みもある中で、当日担当してくれた講演スタッフに感謝いたします。

もう1つは、江別市立江別第二中学校からの依頼です。江別第二中学校では毎年中学3年生の保健体育の授業の中で「エイズの予防、性感染症の予防」という授業を行っており、今回江別保健所を通して、当会に依頼がありました。江別第二中学校でのエイズ出前授業では、講演部門の座学研修を終えたスタッフがアシスタントとして講演プログラムの一部を担当することができましたね。知床ウトロ学校の講演から時間がない中でもあり、スタッフ間の打ち合わせや練習の機会を十分に持つことができませんでした。スタッフの経験になったと思います。時間がない中でも、事前の打ち合わせや練習の機会を持つという課題は残りますが、次につなげて欲しいと思います。

短期目標①にも関わることですが、どちらの学校も管轄保健所からの紹介や依頼によりつながっています。これは2021年度に道内の保健所に電話掛けしたことや「想いをつなぐ-相談&サポート団体リスト-」を送付したことでのつながりを持てたのではないかと考えております。コロナ禍で保健所業務が逼迫し、通常行っていた教育活動が保健所でも難しい状況で、当会の講演事業につながったことは、学校側、保健所側、そして当会にとっても利益のあることだと思います。小さなつながりかもしれませんが、ひとつひとつのつながりを大切にして、これからも活動していきましょう。

また“HIV 陽性者のリアルを伝える”の講演は中期目標①につながっています。医療福祉サー

ビス事業者からの講演依頼はありませんでしたが、担当スタッフのつながりから道外のコミュニティセンターで陽性者の生の声を伝えています。HIV 陽性者の長期療養の時代に、医療福祉サービス事業者に生の声を伝えていくことも大切ですが、身近なところから伝えていくことが、当会が目指す「HIV 陽性者・AIDS 患者との共生を目指し、差別・偏見のない社会を実現」の第一歩と考えます。これからも大切に活動していきましょう。

アウトリーチ事業は、当会の事業の中で、一番多くのスタッフが関われる事業ですが、引き続き COVID-19 感染症の影響もあり、参加できるイベントが少なかったのが現状です。その中でも、さっぽろレインボープライドでは2年振りにブース出展することができましたね。ブースでは、予防について考えるきっかけづくりや HIV/AIDS について知るきっかけづくりの提供ができるよう、色々な種類のコンドームや資料等の配布、参加者へのアンケートの協力を促しました。ブースに立ち寄った人たちにとって、HIV/AIDS や性感染症について考える時間になったと思います。

さっぽろレインボープライドでのブース出展では、数年振りに学生団体 SCORA 北海道の学生さんともつながることができ、当日は一緒に活動することができました。このつながりもあり、年度末には SCORA 北海道の学生さんが、当会の活動に興味を持ってくださり、ヘルプスタッフに登録してくれています。短期目標①の達成が短期目標③の達成につながっていることを実感します。

他にも、数年振りに世界エイズデー札幌実行委員会と協力することが出来ました。「レッドリボンスタディ」の運営に関わる他、世界エイズデーに合わせラジオで陽性者スタッフが生の声を発信しています。

ブース出展以外にも、ラジオでの情報発信やさっぽろレインボープライドの公式 HP へのバナー広告掲載による情報発信など、様々なツールを利用しながら、HIV/エイズについての情報を発信できたと思います。

アウトリーチ事業は、スタッフの「やりたい!」「発信したい!」を実現できる事業です。これからもより多くのスタッフのモチベーションをくみ取り、会のみんなで情報発信していきましょう。

ななかまどPJは、北海道に暮らす HIV 陽性者が「今よりもっと元気になるために必要としていること」を共に考え、形にしていくことを目的に、面談ルーム「くれば一緒」と陽性者交流会を実施しています。くれば一緒の問い合わせ・利用はありませんでしたが、陽性者交流会は、2016 年度に一度企画して実現できなかった地方開催を実現することができました。地方開催については、参加申込の定員割れもあり函館のみ開催でしたが、これは、当会にとって大きなことだと考えています。COVID-19 感染症の影響や参加申込の定員割れなどで中止せざるを得ないこともありましたが、スタッフが適宜、開催と中止の判断を検討し適切に動いてくれたことに感謝いたします。

陽性者交流会は、毎回楽しみにしている参加者だけではなく、新規の参加者も一定数おります。交流会の中では、自分が陽性であることを気にせずに話せる場であり、ニーズのある事業です。

2023 年度は、スタッフがキャリアアップのため活動を離れます。そのため、陽性者交流会の当日の運営に携われるスタッフが1名体制になりますが、内輪の会にならないよう、陽性者スタッ

フ以外のななかまどPJスタッフも含め、安定した交流会が実施できるよう意識しながら、これからも運営していきましょう。

全体を通して、2022 年度も COVID-19 の流行が及ぼした事業および活動への影響は大きかったと思います。それを前向きに捉え短期目標②を掲げましたが、各事業では勉強会などを実施することはできたものの、会員・ヘルプスタッフの皆さんに対して会の中での勉強会の実施はできませんでした。そのような状況でしたが、スタッフそれぞれが外部の研修会や勉強会に積極的に参加して自己研鑽を積み、活動の中で色々なことを吸収していたと思います。

札幌市主催のゲイ・バイセクシュアル男性向けエイズ検査の広報や当日の相談員派遣、厚生労働省の研究班の事業への協力など、継続できている事業もあります。ここには記載できなかった事業もたくさんありますが、2022 年度のスタッフの活動に大変感謝いたします。

2023 年度は、COVID-19 感染症も落ち着き、少しずつ以前のように社会活動も戻っていくことが考えられます。当会も活動しているスタッフが不安にならない程度に、少しずつ活動を戻していきたいと考えています。

これまでも、それぞれのスタッフが関われる形で、活動を支えてくださっています。年齢も職業もセクシュアリティも多様なスタッフが関わってくれていることで、一つの事柄も、多角的に考えることが出来る、これは、当会の財産だと思います。事務局メンバーだけの活動にならないよう、それぞれの経験や感受性を共有するような機会を持ち、切磋琢磨していきたいと思います。

2022 年度も助成金だけではなく、資金面で継続的に応援してくださる賛助会員の皆様、たくさんの寄附をいただいた個人の皆様、啓発資材のサンプルを提供いただいた企業様等、たくさんの方々に支えられ、事業を全うすることができました。本当にありがとうございました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

2023 年度も事務局メンバーだけでは、会の活動はできません。会のみんなで事業を進めていきたいと思っています。スタッフそれぞれが「ワクワクすること」「心が動くこと」を考えながら、自分ができることから始め、みんなで活動の輪を少しずつ広げて行きましょう。

2023年度活動計算書 予算案

秋山 満

(単位:円)

勘定科目	2022年度実績	2023年度予算案	前年比	備考
I 経常収益				
1. 受取会費				
会費区分				
正会員費	48,000	48,000	100.0%	
賛助会員費	59,000	59,000	100.0%	
キルト会員費	17,500	17,500	100.0%	2023年3月現在キルト会員7名
受取会費計	124,500	124,500	100.0%	
2. 受取寄付金	337,570	300,000	88.9%	
3. 受取助成金				
エイズ予防財団	0	0		
さぽーとほっと基金	0	100,000		2022年度分10万円入金予定
イオン黄色いレシート	51,200	51,100	99.8%	2023年寄贈分51,100円
その他助成金	100,000	200,000	200.0%	
受取助成金計	151,200	351,100	232.2%	
4. 事業収益				
陽性者支援事業(ななかまど)	10,000	20,000	200.0%	陽性者交流会 参加費@500 全6回 延べ40人で試算
電話相談事業	213,740	150,000	70.2%	LGBTほっとライン
キルト事業	95,386	90,000	94.4%	ヤフオク!での販売
普及啓発事業	265,617	97,000	36.5%	MSM検査会
講演事業	70,010	0	0.0%	
事業収益計	654,753	357,000	54.5%	
5. その他収益				
受取利息	5	5	100.0%	利息
雑収入	0	0		
その他収益計	5	5	100.0%	
経常収益計	1,268,028	1,132,605	89.3%	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給与手当	113,850	66,000	58.0%	LGBTほっとライン
人件費計	113,850	66,000	58.0%	
(2) その他経費				
旅費交通費	120,101	45,000	37.5%	LGBTほっとライン
通信費	138,781	198,048	142.7%	フリーダイヤル料・プロバイダ料・サーバー・ドメイン料3年分
印刷製本費	98,200	180,200	183.5%	陽性者交流会フライヤー
材料費	23,192	50,000	215.6%	キルト材料費
会議費	23,133	15,000	64.8%	交流会会場費
荷造発送費	44,579	8,000	17.9%	キルト販売発送費
事務消耗品費	0	0		
消耗品費	68,787	33,000	48.0%	
広告宣伝費	50,000	130,000	260.0%	
諸謝金	0	20,000		
複写費	0	0		
支払手数料	14,798	14,375	97.1%	キルト部門ヤフオク!各種手数料
雑費	77,700	60,000	77.2%	キルト PLASさんへの寄付
その他経費計	659,271	753,623	114.3%	
事業費計	773,121	819,623	106.0%	
2. 管理費				
(1) 人件費				
給与手当	0	0		
人件費計	0	0		
(2) その他経費				
地代家賃	180,000	180,000	100.0%	家賃
水道光熱費	95,102	106,000	111.5%	水道・電気(ガス・灯油は使用していない)
消耗品費	166,977	5,000	3.0%	
支払手数料	1,320	1,500	113.6%	クレジットカード決済手数料
荷造発送費	0	0		
研修費	0	10,000		
保険料	11,030	5,000	45.3%	ボランティア保険
交際費	0	5,000		
租税公課	950	0	0.0%	
雑費	0	0		
その他経費計	455,379	312,500	68.6%	
管理費計	455,379	312,500	68.6%	
経常費用計	1,228,500	1,132,123	92.2%	
当期正味財産増減額	39,528	482	1.2%	
前期繰越正味財産額	922,812	962,340	104.3%	
次期繰越正味財産額	962,340	962,822	100.1%	

2023 年度 人事案

【理事会】

理 事 長：沼田 栗実(新任)

理 事：富田 美奈子 ・ 宮内 典子 ・ 本庄 真美子 ・ 秋山 満

監 事：伊藤 雅子 ・ 長瀬 直子

【事務局】

代 表：沼田 栗実(新任)

事 務 局 長：秋山 満(新任)

会 計：堂前 智代(留任)・本庄 真美子(留任)

事 務 局 員：沼田 栗実、秋山 満、本庄 真美子、堂前 智代、

【各部門担当者】

キ ル ト：伊藤 雅子(留任)

電 話 相 談：本庄 真美子(留任)

講 演：沼田 栗実(留任)

ななかまど Project：秋山 満(留任)

ア ウ ト リ ー チ：沼田 栗実(留任)

RRS 中期目標・2022 年度短期目標の検討

■ RRS 中期目標(5 年先を見据えた目標)

2018 年度中期目標の設定に関しては様々な提案があり、運営会議で、

①事業で必要とされるもの、②社会的に必要とされるもの、③運営として必要なものに絞り、検討の結果、5 年先を見据え、以下のように設定したが、この約 3 年間は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、評価するには難しい部分もあるため、2023 年度も継続したい。

2018 年度に改訂し、2021 年度に作成したものを 2023 年度も継続

- ① HIV 陽性者の現在と老後を見据え、医療福祉サービス事業者への情報提供をしていく
- ② 検査率向上を目標に、年間 5,000 人に対して HIV/AIDS の情報を伝えていく
- ③ 「レッドリボンさっぽろ」の目指す社会を実現するために、認定 NPO 法人を取得する。

■ 2022 年度短期目標達成の評価と 2023 年度の短期目標

まず、以下のように提案をした 2022 年度の短期目標(中期目標の①～③に対応している)の達成度を、事務局で次のように評価した。全体的に 2022 年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響が大きかった中で、目標達成に向けて活動したことを大きく評価したい。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつなげる体制を構築していく。

→2021 年度に行った道内の保健所への電話掛けや、道内の行政機関等に冊子作成にあたる協力依頼をお声掛けした際に、当会があまり知られていない現状を痛感し、様々な団体とつながり、情報共有していく場を持つていくことが必要と考え、この目標を設定した。

2022 年度は、前年度の道内の保健所への電話掛けのお陰か、保健所から講演依頼だけではなくコンドームに関する問い合わせもあり、少しずつではあるが道内の保健所とのつながりを持つことができています。また、数年振りに SCORA 北海道や世界エイズデー札幌実行委員会と協力でき、道内の他のエイズ NGO ともつながりを持つこともできただけでなく、全国のエイズ NGO や道内の LGBT 活動団体とのつながりを持てた年であったと評価している。

- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、参加を促していくことで、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。

→この目標は、開設から「言葉で伝える」ということを大切にしてきたが、近年、スタッフ間での感受性を共有するような場が少なかったため、会の中で、知識的なスキルアップだけでなく、言葉の引きだしが増えるような、スキルアップの機会を大切にしたいと考え、設定した。しかしながら、各事業内で勉強会の実施はできていたものの、変わらないマンパワー不足により、会全体での勉強会の実施が十分にできなかったと評価している。

- ③ 活動の輪を広げるために、会員数の拡大に努める。

→この目標は、これからも活動を円滑に進められ、様々な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切であり、その先に認定 NPO 法人取得が考え、設定した。COVID-19 感染症の影響やマンパワー不足など、様々な背景から、活動が制限される中で、会員数の拡大に向けての大きな取り組みは出来なかったが、ヘルプスタッフ登録してくださった方もいたことを評価する。

以上のように、2022 年度の各目標の達成度を評価し、また中期目標を達成するために、2023 年度の目標を以下のように、検討した。2023 年度単年度で達成できることを念頭に置き、検討している。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。
→2022 年度の評価を鑑み、今後も様々な団体とつながりは必要と考える。中期目標①につながる目標でもあるので、継続的につながりを絶やさないよう、引き続き他団体とのつながりを強化していきたい。
- ② 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。
→北海道・札幌でも PrEP を処方するクリニックができ、新しい予防方法で「PrEP」というものがあると、コミュニティの中でも浸透してきているが、「PrEP」という言葉だけが浸透するのではなく、正しい使用方法も伝えていかなければならない。また、一つの予防方法だけではなく、予防方法を複数組み合わせで行うこと（コンビネーション予防）で、HIV 感染拡大の終息を早くするという研究もあるため、まずは、PrEP の正しい知識だけではなく、コンドームの使用や U=U、定期的な検査などと併用するコンビネーション予防についても伝えていきたい。
- ③ スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
→2022 年度の評価を鑑み、2023 年度も継続目標とする。各々のスタッフの感受性やレッドリボンさっぽろとしての考え方を共通認識し、これからも同じ方向に向かって、活動していけるような体制を構築していきたい。
- ④ 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。
→これからも活動を円滑に進められ、多角的な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切である。そのため、公式 LINE の使用などよりアクセスしやすい環境を整える必要があると考える。

以上の 2023 年度の短期目標 4 つを、事務局として提案したい。

【2023 年度 短期目標】

1. HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。
2. 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。
3. スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
(2022 年度から改定し継続)
4. 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。